

『中日大辞典』第三版

金子 眞也

1968年に『中日大辞典』が初めて刊行された当時、親字は7876字（併記されている繁体字・異体字を入れると11,195字）、1987年の『増訂第二版』が8812字（同13,166字）であった。今回の『第三版』は8921字（同13,840字）であるから、親字の数は前回より若干増えている。

愛知大学中日大辞典編纂所ウェブサイト(<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>)と『第三版』「凡例」によると、2009年8月12日に、中国の教育部・国家語言文字工作委員会が発表した《通用规范汉字表》の中に、本辞典に未収録の漢字があり、詳細についてはウェブサイトに対応するとのことである。《通用规范汉字表》じたいが“征求意见稿”という位置づけであることを考えると、《通用规范汉字表》についてウェブサイト対応としたことは、妥当な判断であると評者は考える。

『第三版』の特徴は、ひとことで言うと「利便性の増大」にある。初心者にもなじみやすい作り変わった。項目に分ければ五つ。

まず、第一に、「メリハリがあって内容を追いやすレイアウト」があげられよう。これは、辞書をつい読み込んでしまう老眼の評者にとっても、ありがたいことだ。

第二に、「発音ごとに別々に立てた見出し」をあげよう。“得”を引く場合、“de”は“de”、“dei”は“dei”で引く。好みが分かれるかもしれないが、初心者にはこの方が便利だ。

第三は、「調べやすくするための工夫」である。たとえば“不好意思”は単独で見出し項目としてあがっているほか、“好意思”で引いた場合でも、語釈と例文を読めば、“不好意思”の意味がたどれるよう作られている。ちなみに、本書の“不好意思”のピンイン表記は、bù と hǎoyisi の二つに分けない bǔhǎoyisi で、2004年の《现代汉语规范词典》、2010年の同第二版と同じ表記になっている。

第四は、「財布にやさしい値段」である。税別8,600円で、学習者からみたら決して安いとはいえないものの、20年以上前の『増訂第二版』がつい先日まで同じ値段で売られていたことを考えると、相対的に言ってもすいぶん安くなった。評者などは、『中日大辞典』も安くなったものだなあ」という感慨を禁じ得ない。

第五は、「中国の現状への対応」である。“公交车”“动车组”“八卦”（ゴシップ）など新語・俗義はもちろん、“和谐”を引くと“和谐社会”が用例に出てくるなど、なかなか頑張っている。

レイアウトを見やすくし語彙を増やした分、どこか減らさなければならぬのは、自然な道理だ。『第三版』から外された例として、“二位”（二人を表す尊称）をあげてお

く。こういう外国人に分りにくい敬意の表現が省かれたのは残念である。

最後に、ひとこと。紙の辞書には「読み進む楽しさ」があり、電子媒体には「例文検索の便」がある。『第三版』が早期に電子化され、紙と電子媒体の両方で『第三版』が楽しめる日が来ることを、評者は強く望んでいる。

〔注〕「漢字文献情報処理研究」 第 11 号（2010） 所載。